

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号について

県内の施設カンキツにおいて、新たに「ウスコカクモンハマキ」*Adoxophyes dubia* Yasudaの発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpjn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成17年4月19日
鹿児島県病害虫防除所

病害虫名 ウスコカクモンハマキ *Adoxophyes dubia* Yasuda
作物名 施設栽培カンキツ「不知火」'*Shiranuhi*' Cultivated under Plastic Greenhouse

発生確認及び発生状況

発生確認年月日：平成17年4月8日

発生確認地：南大隅町馬込丸団地

発生状況：生理落果期（2次落果期）にあたり、硬化前の新葉を幼虫が加害した。ハウス内に成虫が散見されたため、被害葉の中の蛹を採取し、鹿児島大学農学部害虫学講座坂巻祥孝助手に同定依頼した結果、ウスコカクモンハマキ*Adoxophyes dubia* Yasudaと同定された。なお、同じハウスで採取した個体の中にチャノコカクモンハマキ*Adoxophyes honmai* Yasudaも確認された。

本種は1998年にチャノコカクモンハマキの同胞種として生殖器及び雄の前翅形態をもとに分類された種であり、主としてチャを加害することが確認されているが、カンキツへの加害は国内で初確認である。

形態及び生態の特徴

形態：雄成虫の前翅長は7～9mmで前翅に明瞭な3条の暗褐色の帯があり、ウスコカクモンハマキでは体の中心線付近で帯の色が薄くなるが（図1）、チャノコカクモンハマキでは帯の色が変わらない。外観的には、極めてよく似ているため、両種を簡易に識別できる外部形態上の差異が報告されており、雄成虫の前翅の前縁にあるcostal foldの内側にウスコカクモンハマキではピロード状の鱗片群があり、チャノコカクモンハマキではこの鱗片群を欠く（図2）。

生態：本県の茶園における予察調査ではウスコカクモンハマキの発生回数は年5回であり、発生虫数はチャノコカクモンハマキの10%程度と少なく、発生消長はチャノコカクモンハマキに比べて遅い傾向にある。沖縄から静岡県まで広い範囲に分布しており、卵幼虫、蛹の各発育ステージを通して、チャノコカクモンハマキより発育零点は低く、27以上で明瞭な発育遅延を起こすため、夏場の発生は少ない。

寄主植物：チャ（ツバキ科）、ヤマモモ（ヤマモモ科）、ネジキ（ツツジ科）
ヤブサンザシ（ユキノシタ科）、アオキ（ミズキ科）

被害：カンキツでは、幼虫が隣接した新葉を2～3枚つづり合わせて、表皮を残して葉肉を食害する。葉が果実に接する場合は果実に食入する。

防除対策

- (1) 新梢伸長期にハマキムシ類に登録のある薬剤を散布し、若葉の食害と果実への食入を防止する。
- (2) 葉が混み合ったり、果実と葉が接触している所は入念に防除する。

引用文献：九州病害虫研究会報（2002～2003年）、鈴山、坂巻、櫛下町ら
平成13年度野菜茶業研究成果情報（P67-70）佐藤、野口、大野ら
鹿児島県茶業試験場平成15年度病害虫発生予察事業調査成績書（P35-36）
平成16年度農薬使用の手引き（果樹・茶・桑編）（P65）

参考資料

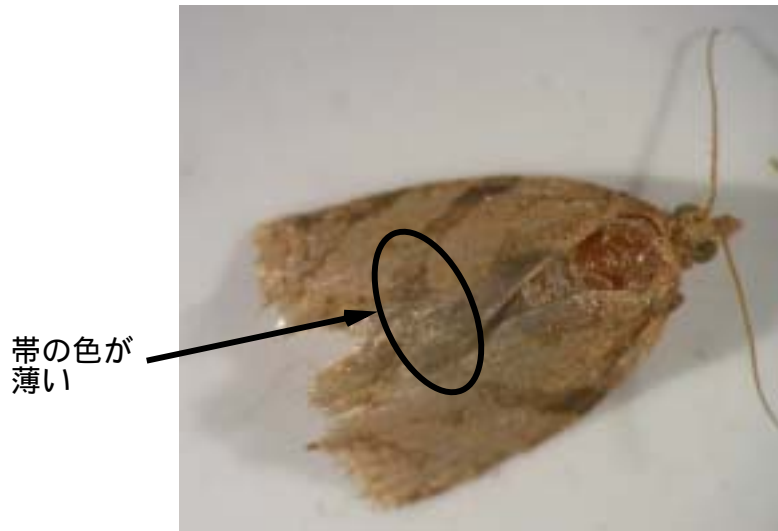


図1 , ウスコカクモンハマキの雄成虫
(現地で採取された成虫)

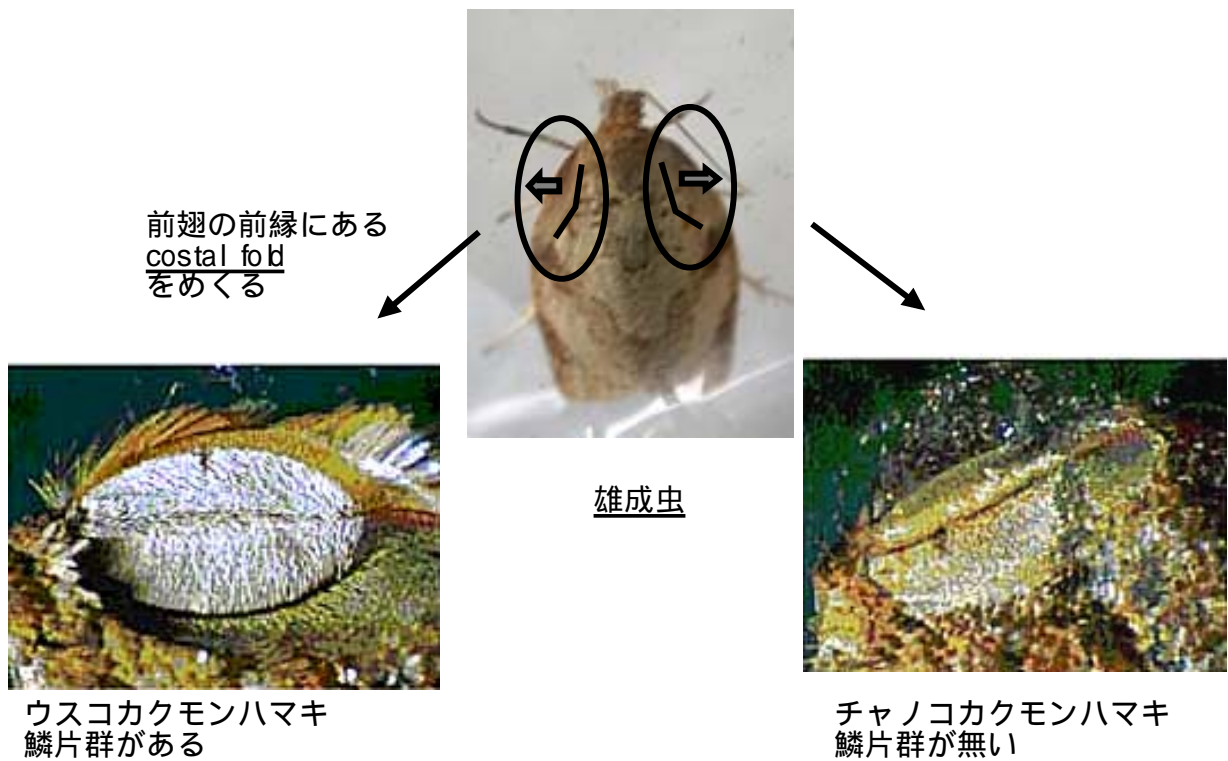


図2 雄成虫の前翅の前縁(costal fold)内側の鱗片群による種の識別
(平成13年度野菜茶業研究成果情報：P70佐藤，大野ら)引用